

海外子会社 Intercontinental Specialty Fats Sdn. Bhd. の 2工場で新たにコージェネレーションシステムの導入を決定 ～2050年のカーボンニュートラル実現に向けてグループ全体で脱炭素化を推進～

日清オイリオグループ株式会社(社長:久野 貴久)は、2050年の「カーボンニュートラル(CO₂排出量実質ゼロ)」実現に向けて、2030年のScope1、2のCO₂排出量50%削減(2016年度比)を目標とし、グループ全体で脱炭素化に向けた施策を実施しています。

その一環として、マレーシアにある子会社 Intercontinental Specialty Fats Sdn. Bhd.(以下、ISF)の、2つの工場(デンキル工場、ポートクラン工場)でコージェネレーションシステムを新たに導入することを決定しました。コージェネレーションシステムとは、天然ガス等を利用して発電し、発電時に生じる熱を蒸気として活用することでエネルギーを無駄なく利用できるシステムのことで、生産工程におけるエネルギー使用を効率化することにより、CO₂排出量削減およびエネルギーコスト削減を図ります。

ISFでは、これまで、工場への太陽光パネルの設置やグリーン電力の購入など、脱炭素化の施策を積み重ねてきています。今後もグループ一体となり脱炭素の取り組みを進め、地球温暖化の防止に貢献していきます。

■コージェネレーション設備の導入とその効果

1. デンキル工場

稼働開始時期:2024年10月(予定)

導入効果:

- ・設備導入によりデンキル工場における電力使用量の約90%、蒸気使用量の約85%をカバーすることが可能
- ・年間のCO₂排出量を最大で約14千トンを削減可能(2016年ISF全体の年間総排出量の約9.2%相当)

2. ポートクラン工場

稼働開始時期:2026年1月(予定)

導入効果:

- ・設備導入によりポートクラン工場における電力使用量の約80%、蒸気使用量の約92%をカバーすることが可能
- ・年間のCO₂排出量を最大で約26千トンを削減可能(2016年ISF全体の年間総排出量の約16.7%相当)

■ISFでのCO₂排出量削減に向けたこれまでの取り組み

・太陽光パネル設置

ISFでは2021年から2工場で太陽光パネルの設置を進めています。2022年度の発電量は1,569MWとなり、CO₂排出量を約1,381t削減しました。

・グリーン電力購入

ポートクラン工場では、2022年3月からマレーシアの国営電力会社テナガ・ナショナル(以下、TNB)からグリーン電力を購入しています。また、デンキル工場においても2023年2月から購入を開始し、Scope2のCO₂排出量削減を進めています。



デンキル工場の太陽光パネル